

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770104218		
法人名	ひまわり介護有限会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	香川県高松市鬼無町藤井126-1		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 30 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりでは、明るく家庭的な雰囲気の中で利用者様が一日一日を、心穏やかにゆったりと 笑顔で楽しく過ごせるよう日々取り組んでいます。季節折々の花を育て収穫して、利用者様飾ったり、実った果物(さくらんぼ・瓜・スイカ・青梅)や野菜(玉ねぎ・ジャガイモ・カボチャ・さつまいもなど)を収穫して、利用者様と料理したり、おやつにお出ししています。次は「何を植えようか？」と利用者様と話し合っ、種から育てたり苗を買ってきて、プランターに植えたりしています。

季節の行事や季節感を大切にしており、「ホールや部屋にはどんな飾りを作ろうか?」「おやつに何を作ろう?」と利用者様と話し合っ進めています。昼と夕食前には音頭をとってもらい、口腔体操を行い、唾液の分泌を促し食事が美味しく食べられるように取り組んでいます。地域の中で利用者様に寄った、安心、安全、安楽な日々の支援に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3770104218-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 12 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりが、家庭的に生活できるように、利用者と共に寄り添い、日々の生活を費やしている。季節感を持つ我が家になる工夫として、庭で取れた季節のお花を活けたり、小さい青梅を摘み取ってシロップ漬けにしたり、スイカなどの果物やそらまめ、グリーンピース、スナックえんどうなどの豆類の皮むきをして、ちらし寿司の彩りとして散りばめ、四季を楽しんでいる。食事は、ケータリングだが、季節に合わせて創意工夫している。利用者に「何が食べたい?」と訪ねると茶わん蒸し、カレーライス、シチュー等など、名前が挙がり、すぐメニューに加えている。取り立てのジャガイモを活かし、ゴロゴロ夏野菜のカレーにしたところ、「これ、これ。このカレーよ。食べたかったんよ。」と、笑みを浮かべながら夏の一文字となった。また、筆で名前書きや暑中見舞い用のハガキの作成が、手のリハビリとなり、自分でスプーンが持てるようになった方もおられ、家族が驚き、感謝が職員の励みともなった。言葉カードや歌を歌うことなどで声を上げて一日1回は笑うことで一人ひとりが笑顔になった。「何かお手伝い、ない?」と前向きな声から、作品作り、食器運びや洗い物などの日常生活が充実できるようになった。地域の関係も深かったあの頃の地区の文化祭、ドライブなどを少しづつ夢見て、事務の方がご自宅などに訪問して、窓越し面会、リモート面会を中心に公式ラインを活用した動画の情報発信を取り入れ、お孫さんのビデオレターが何回も見れることとなり身近な喜びとなり、工夫と身近な関係がここに根付いていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を復唱し、利用者様に寄り添い、安心・安全・安楽、地域貢献交流など、事業所として大切にしたいことを確認しあっています。家庭的な雰囲気の中で、過ごしていただけるように、利用者様に寄り添った支援に向けて取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しています。自治会の常会や地区の掃除に参加し、交流に努めています。自治会の回覧板を通して、地元や地区の広報誌等を利用者様に読み聞かせを行い、季節の情報を知らせて楽しんでいます。	年2回の地域清掃に参加している。自治会の回覧板により、情報交換がスムーズにでき、催事や地域のコミュニティが図れている。地元の職員もいて、顔を合わせると「元気ですか？」と挨拶を交わす関係が形成されている。コロナ前には、地元の野球チームの訪問もあり、地域に根付いた施設である。	コロナ禍だからこそ、今後も地域との交流の継続をお願いしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で行っている、口腔体操や認知低下予防のためのレクレーション、料理おやつ作りなどの介護予防について情報を、回覧板を通じてお知らせをさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症予防対策で書面開催となっています。利用者様と話し合ったことや、地区の民生委員・自治会長様・包括支援センター等から回答のあったご意見は、職員にも周知し、日々の事業所の運営に向けて取り組みさせて頂いています。	会議には、施設長、介護保険課、民生委員、各自治の会長、家族、利用者が参加している。感染症予防対策や入居者状況、行事の活動の報告を行った。現在は、安全面に配慮して書面開催となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高松市介護保険課、地域包括支援センター、高松市成年後見支援センター等との相談連携等、日々新しい情報や資料を頂き、必要な利用者様やご家族様、地域に向けて、各種相談事への連携を深めています。	介護保険課の方からは、コロナ対策や介護情報などの提供がある。運営推進会議においても、食中毒や熱中症注意の呼びかけや、「あんしんガイドブック」を頂いたことで、情報交換や連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開催しています。身体拘束について理解を深め、現状を点検しあい、環境の改善点など身体拘束をしないケアについて、確認し話合っています。ホームが閉鎖的な空間とならない、抑圧感のないケアに取り組んでいます。	毎月1回勉強会を開催し、参加できない職員へは、社内回覧にて確認ができるように工夫している。社外研修もあり、研修に行った職員が、社内で情報を提供することで、共有ができています。身体拘束の他、事故防止、虐待、ハラスメント、感染対策などにも力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催しています。高齢者虐待についての理解を深め、虐待につながらないように言葉づかい、態度、環境などを点検し合っています。気持ちに余裕を持ち、利用者様に向けて心穏やかにケアができるよう取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業について勉強会を持ち、必要としている利用者様やご家族様に向け、支援について、理解を深め合っています。定期的に高松市成年後見支援センターとも連携し、情報確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明はもとより、理解していただけるよう丁寧に説明をしています。利用者やご家族に十分な説明と納得をもらい、安心して入所できるように支援しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からのご要望は、話し合い日々の活動や日曜日の活動に役立たせて頂いています。コロナ禍でリモート面会にて家族とご本人とを繋ぐ取り組みや、公式LINEの活用でご家族のご要望や連絡など活用始めている。定期的に事務より書類を送付する際に、日中活動の様子や行事の様子などの写真を印刷してお知らせしている。	日課表で個人の1日の様子を把握していて、何かあれば介護記録に書き留めることで、利用者の意見を反映できるようにしている。家族からは、日用品や果物の差し入れがあり、利用者と家族の繋がりを大切にする思いから窓越し面会も行っている。また、写真・動画を配信することで利用者の様子がわかるので好評。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者やリーダーは、ミーティングなどリラックスした時間を通じて、職員から何でも意見を言いやすい雰囲気づくりに努めています。何でも気づいたことを話してもらうよう、疑問に思う事、分からないことを質問できる環境づくりに心がけています。	業務手順にて、職員の1日のスケジュールを把握することで、連携が取りやすく、夜間から日勤への引継ぎも円滑に行われている。また、何かあれば施設長へ報告する体制が整っている。朝のミーティングや昼食後に意見が出やすく、貴重な場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働けるよう職員の資格取得に向けた支援をしたり、温かみのある職場づくりを心がけています。また働きやすいように職員の要望に応じ、勤務変更にも柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員など個人のペースに合わせて成長してもらえるよう対応しています。事業所外の研修については、研修会後に資料を回覧しています。事業所内での勉強会のテーマについては、話し合いし計画を立て、定期的に開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・勉強会でのつながりから、資料や情報提供を頂いて、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時より施設の環境に馴染めるまで、個別に対応し、利用者様が不安なことがないか、何を要望されているのかなど、細やかに対応し、職員間で情報を共有し、常に同じケアが提供できるように取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を傾聴し、関係性づくりに努めています。利用者様、ご家族様の状態や要望を聞き、ケアの方向性を話し合っていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態や要望に応じて、訪問歯科・訪問眼科・訪問マッサージなどグループホームで利用できる範囲の事業所を利用されている方もおられます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々と話し合える時間を持ち、同じ目線に立ち、利用者様の気持ちが表に出るよう、話し合いができる雰囲気や環境づくりを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナ感染症予防対策で直接面会ができないので、写真を送って下さるご家族もおられます。部屋に飾ったりしています。荷物を持参された時に、窓越しからご本人を見て安心されるご家族もおられます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節のハガキ(暑中見舞い・年賀状)を送っています。手紙や写真が届くなど個々に応じた対応を行っています。電話は取次し、声が聴けるようにしています。	家族とは、写真や電話の取次ぎをし、声が聞き取りやすいようにスピーカーにして話をする工夫が見られた。手紙やハガキは職員が代読した後、居室に飾ることで、馴染みの人を身近に感じて頂いている。ソファで寛いだり、ウッドデッキでお茶を飲んだりすることで、施設内にも馴染みの場所ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでおやつ、レクリエーション、DVD鑑賞などで過ごす時は、一斉で行うのではなくお一人お一人のペースを把握し、声掛け支援など取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族様とは電話連絡など交流をもち、相談などあればその都度対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、趣味や食べ物など、ご本人や家族から情報を得て、職員間で利用者様の情報を共有交換し、対応しています。	利用者の生活歴を把握し、花が好きな方には花を生けたり、歌が好きな人にはDVDやCDで歌を流してともに歌い、楽しんで頂いている。夜間帯やテレビを観ている時に、利用者からポロっと意見が出る事が多く、出た意見は職員間で情報共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の今までの生活歴らしい生活が出来ているか、表情なども観察し職員同士で話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠や排泄時間など、生活パターンを把握し、一人一人が満足して過ごせる様、職員同士で情報交換を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族様からの要望や希望を伺い、往診や受診の際に主治医にも意見を伺っています。毎月1回項目をチェックし、状況変化あれば都度内容の変更を行っています。	ケアプランは入居時、3ヶ月毎に更新している。体調に応じて変化があった時には、看護師に相談して対応している。情報共有の為に、居室に今の状態や薬の情報を掲示して、手順や注意点を分かり易くする工夫が見られた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設内での日々の様子を経過記録に残し、利用者様一人一人に合った介護計画書を作成できるように、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務手順に捉われずに、利用者様一人一人のペースを尊重するようにし、臨機応変に対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある居宅支援事業所からの情報提供や、地区や自治会からの情報を収集し、必要ある方へお知らせするようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院から2週間に一度往診があります。また、家族様、利用者様が希望する病院に受診される方もおられます。受診結果は家族様から報告を受けて、情報共有しています。訪問歯科・眼科など必要な医療が受けられるように支援しています。	法人内に地域連携室が設置されている他、月2回の訪問診療がある。隣接する医療対応の住居型有料施設があり看護師が常駐していることが、安心感に繋がっている。家族や利用者の意向を汲み取り、かかりつけ医を選択して利用できる体制となっている。ドクターとの関係も良好で、24時間医療関係のことならば相談しやすい体制が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時には看護師に報告し、必要時には家族様に連絡し受診しています。急変時に対応できるよう、常に情報交換を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院関係者と情報交換・連携を行っています。入院時情報提供や退院前カンファレンスに出席し、必要な支援が途切れないように、利用者様が安心して退院出来るよう病院関係者と主治医・看護師・介護職員等が連携し支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変時の対応などを説明し、同意を得るようにしています。ご本人様の体調、状況の変化に伴い事業所でできる事をご家族様・医師・看護師と話し合い致します。必要に応じて、医療看護が提供できる施設への引きつなぎ等、ご本人・ご家族様を支援しています。	入居時に、重要事項説明書や家族の病状の悪化・急変時における加療についての同意を得ている。薬剤師からの情報提供書やドクターからの療養計画書も作成している。看取りの際には、本人の意向を汲み取る対応だけでなく、家族やドクターの意見も参考にし、随時話し合っている。法人内に医療対応	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生時の対応は、急変時の対応マニュアルを作成し、施設内での研修で勉強し、朝のミーティングの時間等でも話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災避難訓練を実施しています。通報訓練など、業者から説明してもらい指導してもらっています。訓練の後は、反省会を行って振り返りしています。	年2回昼夜想定で防災避難訓練を実施し、通報訓練や水消火器の使い方を学んだ。玄関にハザードマップ、事務所に緊急連絡網を掲示している。消火器やスプリンクラーの点検や作動確認をしている。近くのコミュニティセンターが避難場所になっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	聴力が弱い利用者が多く、声かけの方法など配慮しています。排泄介助、入浴はなるべく同性介助で行うなど、ご本人のプライバシーを損ねないように努めています。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、下の名前前で呼んだ方が反応がよい場合には、許可を得た上で、下の名前に「さん」付けで呼ぶこともある。本人の意見を確認することで、思いや意向を把握するように工夫し、個人に合わせた対応や、言葉掛けを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の意見を言える雰囲気作りに努めています。自らの発言が少ない方へはこちらから声掛けを行い、表情なども観察しています。難聴がある方へは、カードを作成したりホワイトボードで意志疎通ができる工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人お一人が自分のペースで選べるようにしたり、意見が発言できる方は希望にそって支援を行っています。レクリエーションの内容も、利用者様の希望に添えるようにし、自由に参加して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に来て頂いています。利用者様の希望に沿って散髪して頂いています。衣類も声掛けし自分で選んで頂いています。顔のお化粧品やハンドクリームを塗る、髪をとくなども自分のペースでされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼や嚥下などご本人の状態にあった、食事の準備をしています。敷地内での野菜や果物を収穫しおやつ時間に召し上がって頂いています。配膳の際、テーブルを拭いてもらうなど参加して頂いています。	ケイタリングだが、ご飯と味噌汁は施設内で作っている。施設内で採れた新鮮な野菜を使った料理が食卓に色を添え、クリームシチューやちらし寿司、茶碗蒸しが好評だった。出来る方には、野菜を剥いてもらったり、包丁を使ったりして調理を楽しんで頂いている、	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が苦手な方には、お茶やゼリーなどで摂取して頂いています。看護師に採血のデータを見てもらい、必要時にはなるべく薬に頼らず食事で摂取できるよう提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には、口腔体操を行い唾液の分泌を促しています。食後の口腔ケアは自分でできることは自分で磨いて頂いています。歯の具合により必要な方は、相談により訪問歯科の利用して頂けます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をとり、一人ひとりの状態に応じて支援しています。残存機能を活かして、できるだけトイレで排泄できるよう支援しています。	排泄チェック表は、色分けして記入することで、確認しやすいように工夫している。排泄した場所や排泄も記録し、脱水や便秘を把握することで介護に反映させている。排泄失敗時には、利用者の自尊心を傷つけないように「新しいものに変えますね」等と言葉掛けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から水分の摂取観察を行い、排便記録をとり、薬になるべく頼らず、体操をしたりおやつにミカンや繊維質の多いサツマイモ、ヨーグルトなどの見直しを行い、水分摂取の調整や声かけ促しを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状況に合わせて入浴設備を使用しています。リラックスして入浴できるよう時間に余裕を持って入浴の予定を立てています。体調や気分に合わせて、予定変更はその都度行っています。入浴不可能な時には、部分浴や清拭などで対応しています。	週2回の提供。回数を増やしたい利用者には、健康状態に考慮しながら対応している。臥床式のお風呂が有料にあるので、使用することも可能。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、清拭や日にちや職員を変えて対応している。季節を味わって頂くために、足湯で柚子湯や菖蒲湯の提供もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間など、利用者様のペースに合わせています。夜間は安眠できるように職員の業務も少なくし、静かに業務が行えるように配慮しています。日中は、ホールでも休めるようにソファを設置しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様や家族様には薬の説明を行い、質問などがあつた時には看護師又は、調剤薬局の薬剤師から説明をしています。症状の変化時には、みねやまクリニックから直接ご家族へ連絡し、報告説明、ご家族と相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や嗜好品情報を日々の会話で収集し、職員全員が把握できるように話し合いを行っています。利用者様が得意な事には、参加して頂けるよう声掛けを行い、参加して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ウッドデッキで日向ぼっこをしたり、現在はコロナ禍で難しいが、地区の文化祭へ外出したりしています。病院受診なども交通に困る方には、外出できるよう対応しています。家族様が付き添えない場合には職員が同行しています。	コロナ禍により遠出の外出は減ったが、施設内の散策やウッドデッキでカフェタイムを開催することで、外気に触れる機会を増やしている。施設内でのレクを楽しむことで外出した気分が味わえている。地域の文化祭に参加し、作品展や踊りの鑑賞、さらには獅子舞が施設に訪問してくれたこともある。	外出支援に代わる、レクリエーションをこれからも継続的にしてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が、ご自分で買い物など出来るよう、家族様や本人様の希望があればお金の自己管理をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設用携帯電話やご自分の携帯電話で利用者様とご家族がやり取りできるようにしています。公式ラインからのメッセージを利用者様に読み上げしています。定期的リモート面会も利用できます。年賀はがきや暑中見舞いなど、ご家族へハガキを作成されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じ生活できるように、季節ごとに利用者で作成した壁画を飾っています。利用者様が不快感無い様に、居室を訪室して遮光や温度調整、照明の明るさを調節しています。共用部分の手すりや床を細目に消毒するなど、衛生管理に努めています。	季節感が感じられるように、行事に応じた壁面の飾りを利用者と一緒に作成している。利用者が好きな野菜のパズルを楽しんだり、歌が好きな方の為に曲を流して、歌を歌っている姿を評価員は目の当たりにした。職員さんの配慮が行き届き、「一人一人が楽しめるように」との思いが詰まったりビンゴであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ感染予防に努めつつ、居心地よい空間づくりに努めています。歩行される方や頻回に居室やトイレに行かれる方、窓から緑が見たい方などご意見を伺い、動きやすい様にテーブルの向きなど配置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望あれば利用者様が、使い慣れていたタンスや椅子など使用して頂いています。家具などの配置は本人様や家族様とも相談し、配置を行っています。居心地よく過ごせるように 居室にご家族の写真を飾ったり、自分で作成したものや気に入った写真を飾っています。	居室の玄関は広く、車イスでも通れるような造りで、さらに居室内も広々としていた。利用者は馴染みの写真や絵を飾り付けることで、自分らしい空間となっていた。家族や孫の写真を飾っている利用者は、その写真に毎日のように語りかけることで、家族を身近に感じることができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様がご自分の部屋がわかるよう引き戸に目印をつけたり、テーブルの上に、お茶を入れたポットや湯飲みを準備して、いつでも飲水できるようにしています。個々に合わせてストロー付きのマグカップを手元に置くなど、自分でできることが維持できるように、日々努めています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない